

♪♪♪

♪ 日本養護教諭教育学会

ハーモニー

♪ 事務局：〒448刈谷市井ヶ谷町広沢1

日本養護教諭教育学会通信 ♪ 愛知教育大学 養護教育教室 堀内研究室内

第18号 1998年6月30日発行 ♪ Tel(0566)26-2491(Fax兼用)

♪ 振替口座:00880-8-88414

♪♪♪

目 次

第6回 学術集会開催案内（第2報）	1
第6回学術集会へのお誘い	2
研究班からの活動報告	3
学びや紹介 北から南から	5
理事会(世話人)等の活動報告	6
10年度・養護教諭関連全国研究大会案内	7
事務局から	7
茨城大学への交通案内	9

日本養護教諭教育学会／第6回学術集会（水戸集会）開催案内（第2報）

1. 日 時：1998年 10月 24日（土）13:00～17:30（12:00～受付）
25日（日）10:00～15:00
2. 場 所：茨城大学 大学会館ほか（水戸市）
3. メインテーマ：「子ども達へのふだんの対応を大切にした養護教諭」として育つ／育てる
4. 内 容

第1日目

◇シンポジウム 「子ども達へのふだんの対応を大切にした養護教諭」として育つ／育てる
座長 堀内 久美子（愛知教育大学）

- (1) 小倉学氏の養護教諭教育への期待について
－氏自らの教育実践と、現職養護教諭の自己教育への期待－
石井 浩二（県立勝田養護学校）
- (2) 養護教諭としての実践の中で得たこと、学んだこと
－自らの成長過程の分析で見えてきた養護教諭としてのバックボーン－
砂村 京子（竜ヶ崎市立久保台小学校）
- (3) 「ふだんの対応」により磨かれる養護教諭の力量
－養護教諭としての視点の広がりと深さ－
中川 裕子（水戸市立赤塚小学校）
- (4) 自己教育力を培う養護教諭の養成教育
－子どもへの対応と自己評価の能力を高める視点から－
盛 昭子（弘前大学教育学部）

◇ワークショップ

- (1) 「ふだんの子どもへの対応」を通して、教師として育つということについて
コーディネーター：戸塚 茂則（茨城大学教育学部教育実践研究指導センター）
- (2) 養護教諭教育における新しい教育方法
－Problem Based Learning の手法を用いて－
コーディネーター：岡田 加奈子（千葉大学教育学部）

第2日目

◇自由研究

◇課題研究

- (1) 「相談活動に関わる力量形成」に関する研究 森田 光子ほか（女子栄養大学）
- (2) 「養護教諭の複数配置」に関する研究 石原 昌江ほか（岡山大学教育学部）

5. 研究発表の募集について

- (1) 演題申し込み締切り：1998年6月30日
発表希望者は演題と内容要旨（200字程度）を送付して下さい。
- (2) 抄録原稿締切り：1998年8月31日
演題受理後、抄録原稿作成要領をお送りしますのでそれに従って作成して下さい。
- (3) 送付先：第6回日本養護教諭教育学会 事務局（実行委員長 大谷尚子）
〒310-8512 水戸市文京2-1-1 茨城大学教育学部 大谷研究室
Tel&Fax 029-228-8298

6. 参加費：会員2,500円、当日会員3,500円、学生1,500円、抄録集のみ1,000円

7. 第1日目の夕方に交流会を予定しています。多数の方のご参加をお待ちしております。会費は3,500円です。

第6回学術集会へのお誘い

実行委員長 大谷尚子（茨城大学）

今年は「茨城年」と言ったところでしょうか。NHKドラマ「徳川慶喜」のPRによって、水戸は観光客があふれています。そんな年に、日本養護教諭教育学会の学術集会を茨城県の水戸市で開催することになりました。

秋たけなわの頃、水戸の文化と学問をじっくりと味わっていただければと思います。

今年の学術集会は、幾つか新しい試みにチャレンジしています。

まず第1は、期間を2日間にしたことです。昨年の第5回（刈谷）集会は、日本学校保健学会の日程から独立させるというチャレンジをし成功をおさめました。今年はさらに「2日間で」と欲張りしました。交通の便のよくない土地での開催ということから、午後から開始して翌日まで、ということになったのです。1日目の夜も有効に使ってほしいと思います（現在、交流会を開催しようかと検討中）。

2つ目は、ワークショップを用意したことです。学会は一方的に研究発表を聞いて帰るというのではなく、主体的に討議に参加し、学問的追求をはかる場です。今回は、より一層主体的な参加の場を提供しようとしたものです。2つの会場に分かれて、じっくりと研究を深めて下さい。コーディネーターの一人、戸塚氏は、茨城大学では教育実習事前事後指導の担当で養護教諭養成教育のことも深い関わりをもっているのですが、今回は特に卒業して教員になった人たちからの職業上のつまずき相談を請け負い、彼らの職業的成長に寄り添い指導しておられる体験を生かしてもらおうと依頼した方です。このワークで現

職の養護教諭の成長のつまずきなどにどう向き合ったらよいのか、またその成長をどう支援したらよいのかを追求できると思います。

あと一人のコーディネーターである岡田会員は、昨年、カナダの海外研修を体験しておりますが、そこで見聞した看護教育の教育方法を帰国後自らの授業で試みている方です。医学教育学会や看護学教育学会でも様々な教育方法のワークショップが行われておりますので、本学会でもそれにならってみようと思った次第です。各人・各大学で試行している授業改善の方法を披露し、その有効性を論じていく契機にしたいと思います。

最後に、メインテーマについて説明いたします。この言葉は、小倉学氏が茨城大学を退官するに際して、色紙に書かれた言葉の抜粋です。小倉氏が長年情熱をもって携わってこられた養護教諭養成に対する姿勢を示している言葉であり、愛する教え子たちへ贈る内容が凝縮したものと思います。そして、この言葉によって養護教諭としての歩みを続け、自らを育てている方は多く、養護教諭として成長するための指針になっております。

今回のシンポジウムにおいては、小倉学氏によって直接教育された体験をもつ方々に登場を願いました。現在養護教諭として働いている3方（石井・砂村・中川会員）には、小倉学氏の教育実践とはどのようなものであったのか、またその教育をもとにして、どう職場で自らを成長させていったのか、自らの成長を検証する中でみえてきた養護教諭教育

（自己教育）の核心となるものは何かなどを語ってもらいます。盛昭子会員には、養成教育の立場から小倉氏の理念をどう実現させようとしているかという自らの実践とともに、上記3氏の内容を本学会がどう受けとめていけばよいのかを考えていく視座を提示しても

られればと思います。座長は、本学会誕生の契機となった学会共同研究¹⁾で小倉氏と一緒に世話人を担当した堀内久美子理事長にお引き受けいただくことができました。

実行委員会は不慣れな者の集まりですが、楽しみつつ、学びの場にもしていきたいと思っています。多くの方々のご参加をお待ちしています。自由研究²⁾にも多くの方のご応募をお待ちしています。

<注>学会誌創刊号参照。1)は学会創設の経緯を示した資料を、2)は研究領域を示した大谷論文を。



研究班からの活動報告 「養護教諭の相談にか かわる力量形成」

研究班代表 森田光子 (女子栄養大学)

1年次の形成目標をまず「相談にかかわる力量とは何か」を明らかにすることとして、7回の会合をもち、文献研究と協議を行いました。参加者は九州から岩手までの会員9名です。

具体的な内容は以下のようなことです。

- 1)文献および実際の調査資料から、養護教諭の相談の概念を明らかにし、それをメンバーが共通認識する。
- 2)養護教諭の相談の定義、目的、独自性を明らかにする。さらに養護教諭側から見た要件とプロセスを図式化してみる。
- 3)現職養護教諭研修参加者のアンケート資料と、実際の事例から「相談にかかわる具体的な力量」を考察する。

具体的な力量としてまず挙げられている内容は養護教諭の「観察・判断」の力量です。相談の対象となる問題の種類やかかわる範囲と限界を判断する力量です。

さらに、問題ごとのかかわり方や方針、連携の範囲とその方法、社会資源の情報・知識の収集、支援のための関係者の連絡調整を行う力量などです。

この研究は98年度も継続して行われることになり、現在は2年次の研究目標「養護教諭の相談にかかわる力量をどのようにして形成するか」に向けて研究を進めています。

そこで、各養護教諭養成機関の「相談にかかわる養成教育の現状」を知りたいと考え、アンケート原案を作成中です。

ご多忙中とは存じますか、アンケートが届きましたらどうぞご協力くださいますようお願い致します。



研究班からの活動報告 「養護教諭の研究能力」

研究班代表 天野敦子（愛知教育大学）

日本養護教諭教育学会共同研究「養護教諭の研究能力」の研究班のメンバーはこれまでになく大勢（28名）となりました。これは養護教諭の研究のあり方に関する関心の強さの現れではないかと喜んでいます。

第一回会合は1998年3月27日（金）に名古屋市勤労婦人センターにおいて開催しました。3月末にあわただしくお集まりいただきましたので当日の出席は14名でしたが、各自の意見を出し合い、実りの多い1日であったと思います。研究班の発足にあたって、堀内久美子代表世話人（愛知教育大学）と石原昌江世話人（岡山大学）から研究班の目的、本研究班発足の経緯などについて報告していただきました。研究班の代表は今年の学会との関係もあり愛知教育大学の天野が務めさせていただくことになりました。どこまでできるか心配ですが、みんなで協力しあって養護教諭の専門性を明らかにするために独自性のある研究方法を模索できたらと考えています。

次に研究会で話し合った内容の概略について報告いたします。

1. 学会共同研究班の活動について

- ・予算は5万円
- ・年次学会（研究大会）での発表を行う
- ・学会誌での報告を行う

2. フリートーキングの内容

話し合われた内容を整理すると、①研究能力がどのように培われるのか、②養成教育と現場の研究との関係③研究方法となりました。ここでは、その中の③研究方法について主な点を述べます。

- ・事例の羅列からの脱却のために、研究的視点を持ってどう切り込んでいくか。
- ・実態把握のために養護教諭の行っている研究活動からテーマを分析するのほひとつの手法といえる。
- ・実践から導き出す方法はかなり行われているので、枠組みを作って押さえていきたい。
- ・養護教諭の固有の「研究」をさぐりたい。
- ・アプローチとして調査等で実態を捉える、養護教諭の「研究」の考え方を整理する、という二点が考えられる。

3. 確認事項

意見交換をふまえて、次のような事柄を確認しました。

1) 本研究班の基本的な立場

「研修」ではなく「研究」を進めていく。

2) 本研究班の目的・方向性

①養護教諭に固有の研究とは何か、そのあり方について検討する。

②養護教諭の研究能力とはどのようなものか、それはどのように身につく、どのように高められるのかについて検討する。

4. グループ別研究テーマと責任者の決定

A グループ（責任者 藤井寿美子 愛知女子短大）

現場における養護教諭の研究に関する課題の把握などの実態調査をする。

B グループ（責任者 後藤ひとみ 北教大旭川校）

養護教諭の「研修」「研究」「実践」を定義づけて「研究能力」を明文化する（文献中心）。

C グループ（責任者 山崎隆恵 藤沢北高校）

養護教諭の研究の実際を分析する（養護教諭の研究発表や実例などを参考にする）。

次回の会合は7月11日（土）に名古屋市勤労婦人センターで行う。

「校名変更し専門性の充実を」

小林壽子（鈴鹿国際大学短期大学部）

本学は名古屋市に本部を設置しております「享栄学園」が母体であり、1913年（大正2年）、8年に互る米国留学から帰国されました故堀栄二先生が「英習字簿記学会」を創立初代校長に就任されたのが始まりであります。その後、三重県にも学校を設立し愛知県共に現在幼稚園を含め8学校を有しております。理事長であり、本学の学長である2代目堀敬文先生は「誠実で信頼される人に」を「陰徳ある者必ずその栄を享く」——「享栄」の大典の基であり、学園の精神——から、常日頃より学生に訓辞されており、自らも実践されてこられました。

さて、この4月より32年間継続して参りました「鈴鹿短期大学」の校名を上記のように変更致し新たな出発を始めました。養護教諭2種免許取得を目指し、北は北海道、南は沖縄より学生が集い、1992年（平成4年）からは男女共学となり、約1割の男性も常時入学するようになり、今ではすっかり学内実習はもとより学外実習も進和感がありません。

唯少子化の影響は強く、又採用枠の厳しい昨今は当初の目標を変更せざるを得ない結果になっております。その為に、先ず私共は養護教諭の専門性を現代の教育現場のニーズを考え、ヘルスのみならずメンタルカウンセリングに対応出来るよう「カウンセリング」

「心理学」の科目を専任教員が担当し、又、「学習会」も開き、特に関心ある学生との対話・ディスカッションを計画致しております。又、「精神保健」の科目では内容として「家族の在り方」特に母と子及び父と子との乳幼児期の関わり方等も深く考える機会としてお

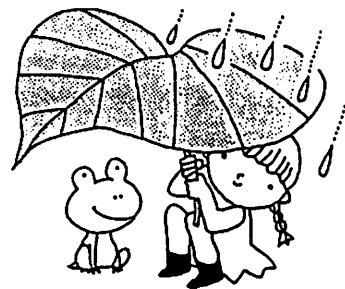
ります。その他、学外実習（臨床、養護）を重視し、現場の先生方は勿論、卒業生の来学をもって「体験を語る会」を催す事も行っております。毎日のハードな時間割構成が2年の前期迄続きますが、その間卒業研究を2年生の通年に設け、学生生活の最後を飾り又、卒業後の研究活動の基礎となるよう努めております。

この他、資格取得として社会福祉主事任用、日本赤十字社救急法、英検、ワープロ検定、ホームヘルパー3級も実施しております。

この結果、卒業後の進路として、約半数は臨探も含め養護教諭であります。福祉関係（特に老人）、病院看護助手、病院事務及び鈴鹿国際大学を始め、他大学の福祉学科、心理学科への編入学や専門学校への進学も目立っております。

帰国子女、外国人及び社会人入学制度の導入以来、毎年1～2名の入学生があります。この学生達の存在が、若い学生へのよい刺激となっているのも特徴の一つです。

以上、本学の現状を述べました。少しずつではありますが、来年は「学校保健演習」を加えたり、又、福祉系科目の開設を検討する等、教員が一丸となって、よりきめ細かな教育を考えております。



学びや紹介♪南から
「保健科学部看護学科
での養護教諭養成」

門田 美千代 (吉備国際大学)

高梁市は、高梁川と山に囲まれた自然の環境に恵まれており、鎌倉時代から700年以上に亘る歴史と伝統を持った西の小京都とも称されています。この情緒豊かな町の東方の一画、緑に囲まれた中に一際映える白い校舎が平成2年に開校した吉備国際大学です。

当初、社会学部に国際社会学科と産業社会学科を持つ単科大学としてスタートした大学でしたが、平成7年4月より社会福祉学部には社会福祉学科、保健福祉学科、保健科学部に看護学科、理学療法学科、作業療法学科を開設、さらに社会学部大学院を創設し総合大学への第一歩を踏み出しました。

当校の特徴は、国際交流が盛んで、海外からの教諭陣も整え、また世界8ヶ国の22大学と教育交流協定を結び、さらに海外からの留学生受け入れにも積極的に取り組んでおります。

さて、我が看護学科は、卒業と同時に以下の資格が取得できます。(選択を含む)

- ①看護婦(士) 国家試験受検資格
- ②保健婦(士) 国家試験受検資格
- ③高校教諭一種免許状(看護)
- ④養護教諭一種免許状
- ⑤衛生管理者



養護教諭養成については、看護学科の中で資格取得のための医学・看護の基礎を学び、加えて心豊かな人材の育成に力点を置いております。来年3月が第1回生の卒業ですが、卒業生が小・中・高校の児童・生徒から信頼され、心の支えになって児童・生徒の心身を一際大きく伸ばして欲しいと希望しております。また、保健室を通して教職員からも信頼され学校保健活動が活発にできる養護教諭の育成を目標にしています。



理事会(世話人会)等の活動は次の通りです

1. 第26回拡大世話人会

日時：1997年10月3日(金) 18:00~22:00

場所：国際ホテル松山

出席者：世話人7名(堀内、石原、大谷、楠本、下村、中桐、盛)、第5回研究会実行委員長・委員(天野、藤井)

内容：第5回研究会役割分担と諸準備、第6回総会議案編成、各議案(事業、決算・予算、研究テーマ、会則・実施細則等)の内容、学会誌投稿規定、学会誌編集企画、教免法改定に関するとりくみほか

2. 第27回拡大世話人会

日時：1997年11月7日(金) 19:00~21:00

場所：愛知教育大学

出席者：第26回の出席者の他に会計監査2名(吉田、山口)

内容：第5回研究会当日の運営、第6回総会議案および資料、総会の運営、会則制定移行措置ほか

3. 第28回拡大世話人会・編集会議

日時：1997年12月13日（土）13:00～18:30

場所：名古屋市女性会館

出席者：世話人6名（堀内，石原，大谷，楠本，下村，中桐），第5回研究大会実行委員長

内容：学会誌1巻1号の編集，第5回研究大会の総括，第6回総会決定事項の周知方法，1998年度各理事の任務分担，編集委員会体制ほか

4. 第29回拡大世話人会・編集会議

日時：1998年2月14日（土）10:30～17:00

場所：大阪教育大学天王寺キャンパス

出席者：世話人6名（第28回と同じ）

内容：学会誌1巻1号の編集，学会誌査読要領，1998年度からの編集委員委嘱，学会案内広報文書ほか

5. 1998年度第1回理事会

日時：1998年6月21日（日）10:00～13:30

場所：ホテル アウィーナ大阪

出席者：理事7名（堀内，石原，大谷，楠本，下村，中桐，盛）

内容：年間活動計画，第6回学術集会準備，第7回総会準備手順，研究活動に関する申合せ，教育職員免許法改正関係の情勢と対応ほか

6. 1998年度第1回編集委員会

日時：1998年6月21日（日）13:30～17:00

場所：ホテル アウィーナ大阪

出席者：編集委員10名（理事7名の他に，池本，大道，小西）

内容：学会誌1巻1号企画・発刊の総括，同誌2巻1号の企画，同誌投稿規定の改正，同誌関係予算，「ハーモニー」企画ほか

7. 1998年度第2回理事会開催予定

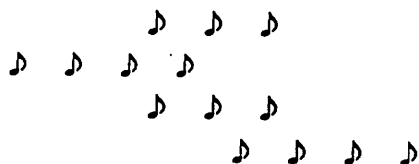
日時：1998年8月27日（木）

場所：名古屋市

8. 1998年度第2回編集委員会開催予定

日時：1998年10月24日（土）

場所：水戸市・茨城大学



養護教諭関連
全国大会案内

●平成10年度全国養護教諭研究大会

7月23, 24日 大阪府立体育館

問い合わせ先 各都道府県教育委員会へ

●第28回全国養護教諭サークル協議会

京都研究集会

8月7～9日 京都テルサ

現地事務局 中村氏 ☎075-841-5899

「養護教諭」の名称の研究会を紹介しました。

事務局から

☆新人会員（1998年度より）

— 数字は会員番号 —

260 野本英子(世田谷区立船橋小学校)

261 古角好美(大阪府立城北小学校)

262 遠藤伸子(女子栄養大学大学院)

263 砂村京子(竜ヶ崎市長久保台小学校)

264 松野智子(岩手県立盛岡北高等学校)

265 村山貴子(牛久私立神谷小学校)

266 紫崎卓巳子(大任町立大任中学校)

267 住田 稔 (大分大学教育学部)

268 新谷優子 (広島女学院中高等学校)

269 池田みすず(長野県梓川高等学校)

- ☆会員名簿の変更
— 1997年発行会員名簿より —
- P. 1 芝木美沙子
電話番号変更→ダイヤルイン
0166(51)1384
- P. 2 237 古笹典子
住所の訂正→秋田市土崎港北1-3-1
61 菅原麻子
住所変更→仙台市青葉区北根1-6-18
- P. 3 219 古野桂子
勤務先変更→青森県立青森聾学校
- P. 4 118 大塚典子
電話番号変更→045-866-1528
148 亀井よ志子
連絡先変更→練馬区光ヶ丘1-6-
3-807 ㊟(03)3977-3980
- P. 5 211 久野孝子(中部地区へ)
連絡先変更→〒474-0031
大府市盛岡町山中17-7
㊟(0562)46-3631
- 222 塩田溜美
勤務先変更→習志野市立第一中学校
- 22 曾根睦子
勤務先変更→前筑波大学附属駒場中
・高等学校
連絡先変更→〒271-0065 松戸市南
花島4-61-17-604
㊟(047)365-8940
- 175 中島宏美
氏名変更→平館宏美
連絡先変更→〒273 船橋市習志野台
8-35-1 日本大学附属習志野高校
- 33 永瀬春美
連絡先変更→〒271 松戸市和名谷718-4
㊟(047)392-3410
- P. 6 138 村木久美江
電話番号変更→㊟(048)259-7664
(川口市教育委員会)
- P. 7 76 大原榮子
連絡先変更→〒474-0022大府市若草
町3-12ライオンマンション大府404
㊟(0562)44-2281
- 126 木野本はるみ
所属名変更 鈴鹿短期大学→
鈴鹿国際大学短期大学部
- 70 小林壽子
所属名変更 鈴鹿短期大学→
鈴鹿国際大学短期大学部

- P. 8 204 多川三紀子
連絡先変更→名古屋市立平和小学校
- P. 9 90 森 千鶴
連絡先変更→名古屋市立栄小学校
- P. 10 64 福本 恵
勤務先変更→京都府立医科大学医療
技術短期大学部
〒602-0357京都市上京清和口寺町東
入中御霊町410 ㊟(075)212-5434
- P. 12 174 小西美智子
電話番号訂正→㊟(082)257-5390
- P. 13 166 松浦昭子 → 佐藤康子会員に変更
- P. 14 187 一丸俊江 → 一丸俊恵に訂正
168 嘉手苺初子
勤務先変更→琉球大学教育学部
139 坂本洋子
勤務先変更→産業医科大学
産業保健学部
〒807-8555 北九州市八幡西区医生
ヶ丘1-1 産業医科大学
㊟(093)691-7155
- 200 吉田あや子
勤務先変更→西南女学院大学

— 98.3発行会員名簿追加より —

- 247 工藤宣子
勤務先変更→岩手県立大学看護学部
連絡先変更→(自) 〒020-0105盛岡市
北松園 4-37-6-101
㊟(019)664-6037

編集後記

ハーモニ-18号の発行が遅れまして、申し
訳ございません。特に、早くから原稿を送って
くださった会員の皆様方にはお詫び申し上げ
ます。次号も会員の皆様方の投稿をお待ちし
ております。今月号から新編集委員が加わっ
ての編集となりました。(楠本)

編集委員

- 委員長 中桐佐智子(吉備国際大学)
委員 池本 禎子(順正短期大学)
石原 昌江(岡山大学)
大谷 尚子(茨城大学)
大道乃里江(大阪教育大学)
楠本久美子(旺文大学出版部)
小西 俊子(新庄小学校)
下村 淳子(数知前大附属高校)
堀内久美子(愛知教育大学)
盛 昭子(弘前大学)

